

奪われたハンドル

検証

浦和電車区事件の真実 No. 5

民主化闘争情報 [号外] 2008年10月14日発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第5回 エスカレートする追及行動

浦和電車区分会の決定など知るはずもない吉田氏は、2000年12月30日の職場集会で理不尽な要求を受け入れたことで、事態が収まったと思っていました。ところが、年が明け、JR東労組による追及は、ますますエスカレートしていきました。

1月4日から6日までの3日間、午前・午後合わせて6回にわたり、職場内で吉田氏に謝罪させるための臨時職場集会が開かれました。吉田氏は、勤務の合間を縫うように追及集会に出席させられ、疲労困ぱいの中で、何千人ものお客様の乗車する京浜東北線の列車を連日運転していたのです。もちろん吉田氏はこのような糾弾集会に出席したいはずもありませんでしたが、欠席すればもっとひどい仕打ちに遭うと思い、仕方なく参加していました。同じ運転士である分会役員らが、吉田氏がどのような状態で運転していたか、知らないはずはありません。

JR東労組の排他的性質は革マル派と似ている！

ところで、JR総連・JR東労組の「積極攻撃型組織防衛論」や「平和共存否定」といった論理や方針にみられる排他的な性質は、革マル派の性質とよく似ていると思われます。

内閣総理大臣名による「政府答弁書」や、国会審議における警察庁警備局長らの答弁では、JR総連、JR東労組内に「影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」と繰り返し指摘されてきました。その一部を紹介します。

〔山下八洲夫参議院議員「JR総連・JR東労組などJR労組に浸透する革マル派の実態等に関する質問主意書」に対する政府答弁書（2006年5月12日）抄〕

日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派（以下「革マル派」という。）は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、約5,400人の活動家等を擁しているとみている。革マル派は、他の極左暴力集団と比較しても非公然性が極めて強い組織であり、これまでも、火炎びんの使用等の処罰に関する法律（昭和47年法律第17号）違反事件や対立するセクトとの間での殺人事件等、多数の刑事事件を引き起こしているところである。

革マル派は、現在、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っており、例えば、全日本鉄道労働組合総連合会（以下「JR総連」という。）及び東日本旅客鉄道労働組合（以下「JR東労組」という。）内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると見られるところである。

このため、警察としては、JR総連及びJR東労組という公共交通機関の労働組合における革マル派の動向について、公安の維持の観点から重大な関心を払っている。

（次号に続く）

[第4部]

エスカレートする追及行動



1月4日、年明け早々
講習室で再び
職場集会在が

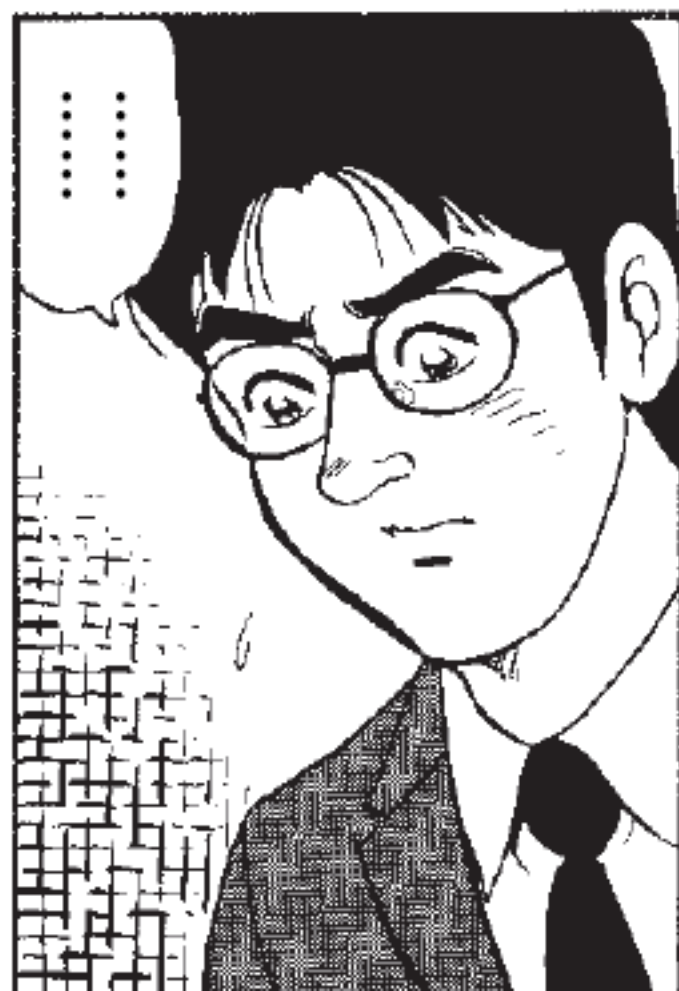
この日も糾弾
となる



皆さんに
ご迷惑をかけた
ことをお詫び
します



吉田君から
今までの
反組織的な
行動について
釈明して
もらう



言葉だけじゃ
だめだ

今までの
行動を見て
いると
信用できない
んだ

誠意を
見せてほしい

.....



同じ日の午後
糾弾の集会

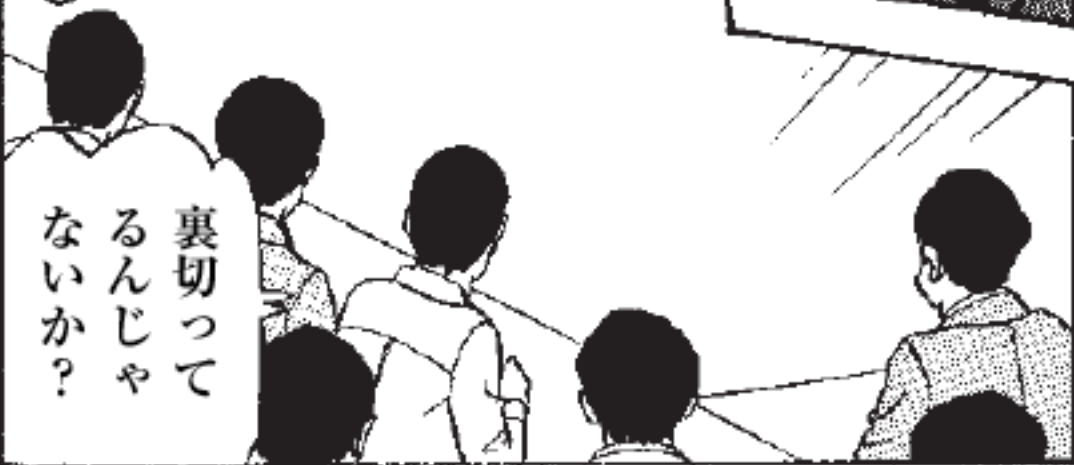
もう一度訊くけど
グリーンユニオン
との関係はどうなっ
てるんだ



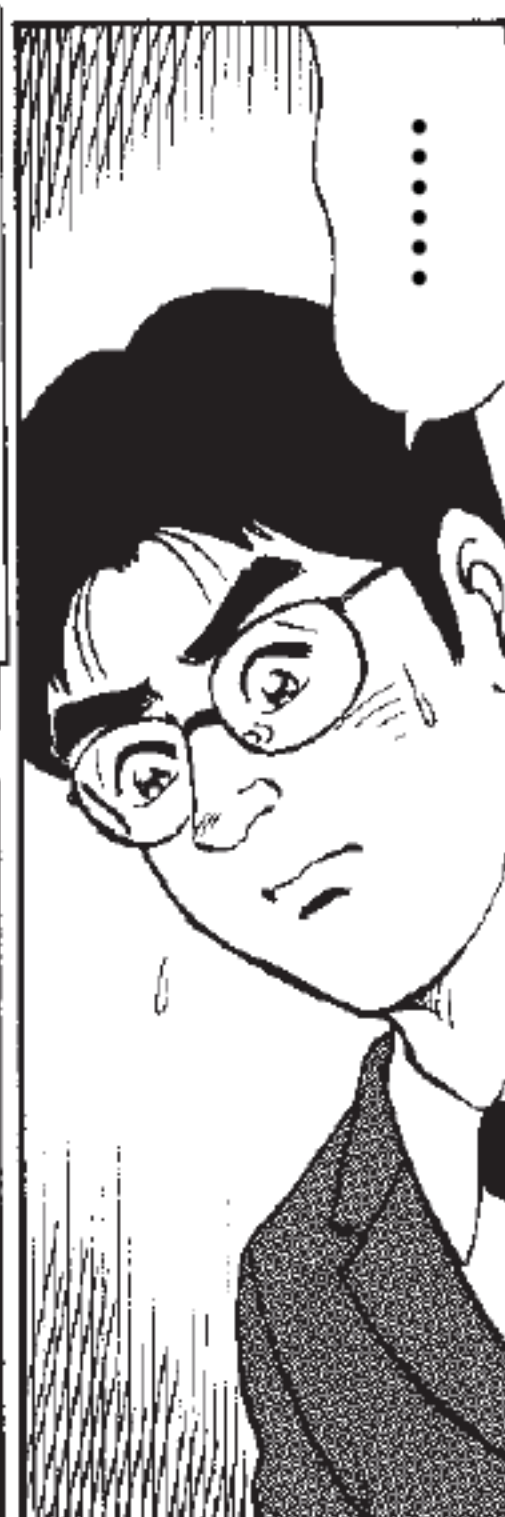
はつきりしろよ



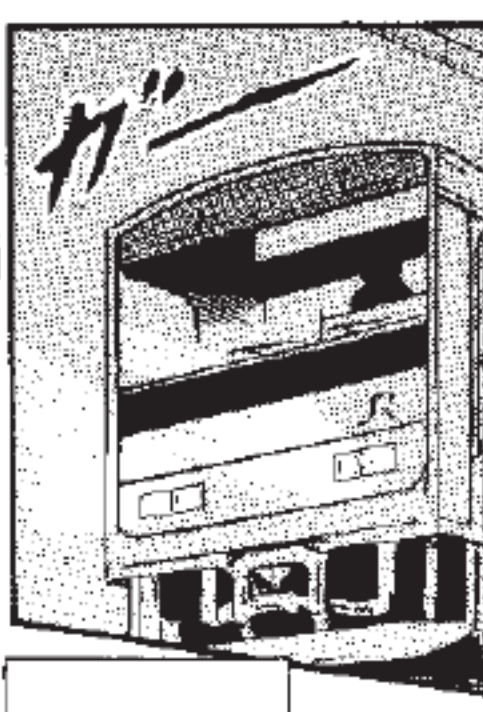
グリーンとどんな
つき合いしているんだ



裏切っ
てるんじ
ゃないか？



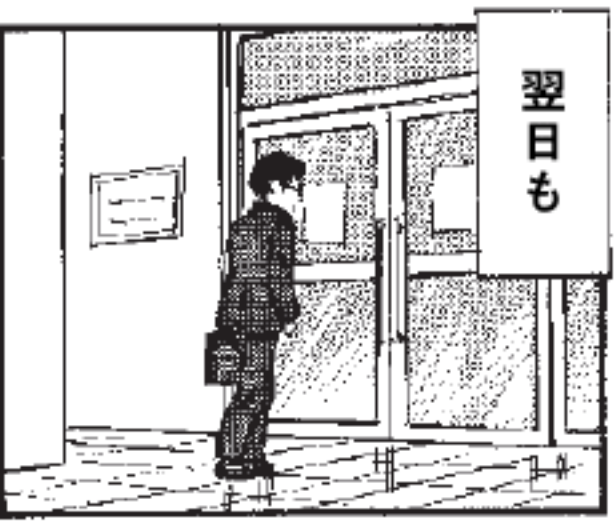
二度の糾弾集会の後
吉田氏はそのまま
泊り勤務に就いた



同じ職場の電車運転士に
集団で精神的な重圧を加える。
安全をどう考えているのだろうか



翌日も

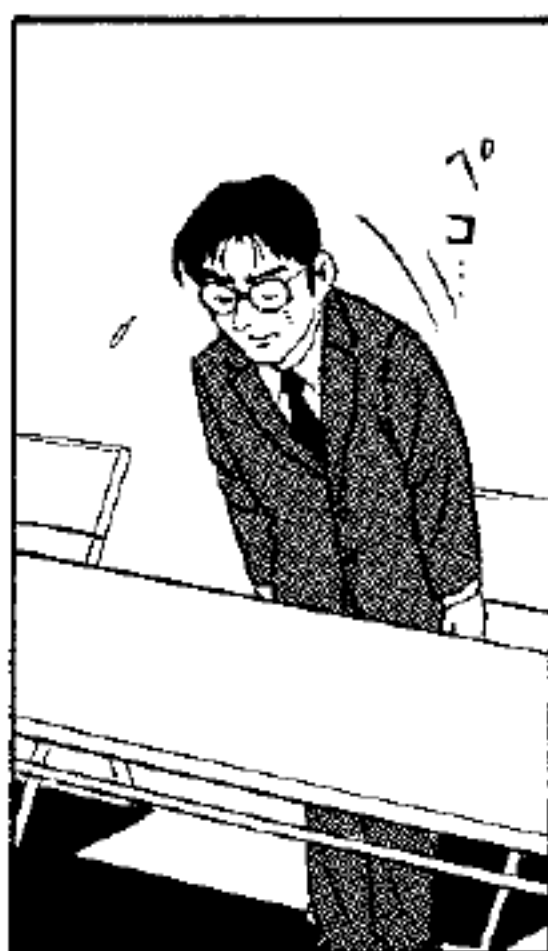


吉田君！
集会を
始めるから
直ぐ来て
くれ



1月5日午前
3回目の追及集会

前夜からの勤務を
終えたばかりである



昨日も
言いました
ように
ご迷惑を
掛けました
お詫びします



信用できない

そしてこの日
午後から夜に
かけて4回目の
集会が……

組織破壊を
許すな！

きちんと反省
したらどうだ

組合の決めた
ことを守れ
ないのか

糾弾は午後まで続いた







さらに翌日
朝から再び
追及集会

そしてその
日の午後も
攻撃は日増しに
エスカレートする

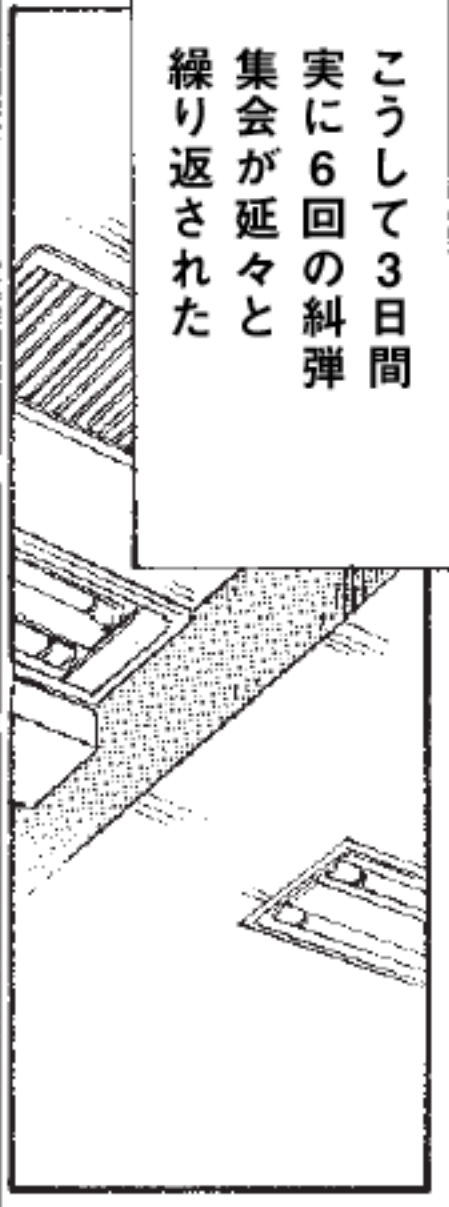


改めて
訊くけど
これからは
組合の方針に
従うだろうな

はい……



集会の後
休む間もなく
泊り勤務に
就く



こうして3日間
実に6回の糾弾
集会が延々と
繰り返された

仲間から糾弾され続けて
精根尽き果て
まともに運転できるような
状態ではなくなった



こんなことが
続いたらいつか
事故を起こす